

白山ふるさと文学賞

第十回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年作文の部 優秀賞

未来へ

松任小学校五年

沖津 おきつ

百花 ももか

私は、優しくして、人の役に立てる人になりたいです。その理由は四つあります。

一つ目は、四年生の時に障がいのある人について学んで、障がいのある人に優しく接したり、その人の役に立つことが、障がいのある人の大きな助けになったり、安心して毎日過ごすことにつながると思っただけです。障がいのある人は、不便なことや、周りから差別されることも少なくはないと思うけど、今年の夏にあるパラリンピックのように、障がいのある人が活やくできることもあって、その選手が自分らしく一生けん命がんばっている姿を見ると、とても勇気をもらいました。

二つ目は、クラスの友達がケガをしてしまった時に、クラスみんなが心配して優しく声をかけたり、いろいろな事を手伝ってあげたりしている様子を見て、そのみんなの優しさや、役に立ちたいという気持ちを感じたからです。このような気持ちのおかげで、ケガをしてしまった友達も、がんばって学校に毎日来ることができたと思うし、なんだかクラスもあたたかくなった気がします。これからは優しさや役に立ちたいという気持ちを忘れずに、みんなが助け合ってクラスをよりよくしていきたいです。また、そのような学校・社会になるといいなと思いました。

三つ目は、病院で働いている人たちの姿を見たからです。私は生まれつき病気を抱えていて、お医者さんやかんご士さんたちなどの病院で働く人たちに支えられ、助けられてきました。もしこのような人達が私を支え、助けてくれなければ、家族と一緒に過ごしたり、友達と遊んだり、学校に行って勉強したりするなどみんなと同じ生活を送っていくことはできなかったかもしれません。まずそれ以前に生きることさえもむずかしかったかもしれません。このようなことを思うと、私をすくってくれたことにとっても感謝しなくてははいけない、このすくってくれた命をこれからも大切にしないではいけません。お医者さんやかんご士さんの優しさや、すくってあげてその人の役に立ちたいという気持ちも伝わりました。そのお医者さんたちも、今はコロナウイルスに感染して

しまった人たちのことをすくってあげたいと、日々努力しています。いっ自分が感染してしまうか分からないし、家族ともなかなか会えないので、毎日不安でいっぱいだと思います。それでも毎日かん者さん一人一人と向き合っている姿を見ると、私もがんばらなければと思います。かんじやさん一人一人に対する優しさや、そのかんじやさんやその家族の人の役に立ちたいという気持ちがとても伝わってきました。

四つ目は、心に残っている言葉があるからです。その言葉は、「できる・できないかではなく、やるか・やらないかだ。」という言葉です。この言葉は、本を読んでいる時にその本の主人公が言った言葉です。この言葉を気持ちで落ちこんだ時などに思い出すと、とても勇気をもらえます。私は、よく物事をできるかできないかで考えがちです。でもその前にやるかやらないかを決めることで、少し気持ちが楽になります。そして、もう少しがんばってみようと思えるきっかけにもなります。私は、この言葉に出会ってから二年くらいになります。ずっとこの言葉に支えられ、助けられてきました。たん任の先生も言っていました。みんなにだれにでも優しくできるわけではないし、だれかの役に立てるかも全然分かりませんが、まず勇気を持ってどんなに小さな一歩でもふみ出してみることから始めてみたいと思いました。これからは、この言葉に一步一步勇気を出して、もう少しがんばってみようと思える元気をもらいながら、楽しいこともあれば悲しいこともあると大変な毎日、一日一日大切に過ごしていきたいと思えます。これからは、この言葉を忘れずに、また新しい言葉ともたくさん出会っていききたいです。

私は、いろいろな経験を積み重ねていくたびに、しよう来の夢も変わっていくかもしれません。でも、私はどんな仕事についても、人に対する優しさや人の役に立ちたいという気持ちを忘れずに、自分で決めた道をつき進んでいきたいです。